



の入れ方に流石のサボリストもお手上げた。

ラグビー、サッカーにしろ、バスケットだつて走り廻らなければならぬし、相撲は馬鹿力が必要だし。そうだ、バレーならピルの屋上等で、女の子が奇声をあげて楽しんでいちゃあれだろう。これは将来役立つかも知れないぞと、勇んで志望したまでは良かったが、やはり、人生そう甘くはねえ、バレーにしたのが運の尽き、六日のうち二日がバレー、残りはカッター、マラソンに棒倒しと、へとへとに疲れ思索するとか、本を読もうなんて云う意欲は全然ない。楽しみは「ただ寝ること、喰うこと、それだけ」おれも随分退化してしまつた。

体育が終つて五時十五分食事、それから六時四十五分の信号訓練までが唯一の自由時間だが、この間に入浴、洗濯からエネルギーの補充とまづたく多忙だ。どれか一つミスしても次の生活を影響する。

その入浴も予算の関係でままならず、汗で汚れ、金魚が泳げそうなるいやつ、それで風邪を引けばたるんでいるからだと驚かされ、診療に行けば平常点を引かれるというものすごさ、食事のまづさはお話しにならないし、まあ、余り本当のことを書くとも母が悲しみ、又卒業後自衛隊に入らない奴でも出たら長官に怒られるといけないから、このくらいで止めるが、家に帰れば良きパパが、蜚声をはり上げていがみ合い、奥さんの買物している前を蟹みたいに泡をふきながらマラソンするのは、ほのぼのとした人生の悲哀が感じられ、一寸哀れな情景だ。

学生の意向は無視され、一度決まつた事は守れ、悪法も法なり

とが、命令は命令だ。

その意志の強さには敬意を表するが、頑固さ、合理性の無視、ヒステリックな体育日課、敢闘精神の育成を目的とした棒倒しの強制、入校早々に由緒深い木立、風格ある赤煉瓦の学生舎に接した時の感動、敬けんな気持も、今は薄れ、この古のかしい建物のすみには未だ帝国海軍の亡霊が生きているのかなあ、等と感じるようになってしまつた。

まあ、このようなわけで運動もなかなか盛んだ。岡田、中、鈴木(信)、清島、田中等が今年の全国自衛隊ラグビー大会には、是非優勝するぞと頑張っているし、野球も迷門防大の野球部出身佐々木を中心に、その実力もなかなかどうして、自称相当なものだそうだ。

バレーは田村、吉田、田畑、竹永等第一流の名選手を集め、おれがハーフェンで頑張っているのだから、実力優秀怖いものなし、佐久間が例の如く、頭を傾けながらサッカーで張り切っている。

竹内、本吉、島津等錚々たる連中が相撲班、毎日肉体的訓練より、まづ知的技術の体得をモットーにテレビで大相撲の研究、マラソンの連中から羨やましがられている。

次に君等後輩の一番知りたがつているのは、やはり幹校における我々の評判や、成績だろうと思うが、この点に関しては三〇倍の倍率を突破した我々だ、心配御無用、良い面、悪い面、いずれも他を圧している。

実例をあげれば、運動競技の決勝戦は防大の校内大会のようだし、水泳大会のメダル入賞の大半は我々で取り、又先日の信号競

技大会でも、八期入賞者六名中鈴木（富）、水本、中津川、小賀、久保と五名までを我々で占めた。

又各試験でも他大学、部内出身者に比べて、大体一割位は平均点が高い、四日の経理補給の試験に例をとるなら、各教務班の平均点が、一九六・一八〇・二〇三・二〇五・二二五・二二七、後の二班が防大班、防大班的最低点がある教務班の平均点なのだから凄いだらう。

一事が万幸、まあこの調子、それでおれ達だけは問題をむづかしくして、別々の問題で試験が行われているのも多い。

これだけ書けば、いかに我々先輩が優秀なのがわかるだらう。二期生以下余り出来が良くないそうだが、我々に負けないよう努力しろ。

我々、このように体力、智力共、大いに優れているが喰う方、飲む方、規律違反もピカ一らしく、PXの半分の座席はいつも見飽きた顔が坐っている。

特に平間と西成にあいたい時はPXへ行けと、云われるくらい有名で、この点に関する限り人後に落ちぬ自信がある。

先日外出したら、警務が「悪い事をするのは防大出ばかりだ」と等と話していたと水本が報告していたが、私服の着用、深夜飲食（十一時以後の飲食店立入りは禁止されている）どうもこの方面の実績も相当らしい。

私服の着用だが、夏休み白制服の防大生が見学に来たのに会つて、馬子にも衣裳と云うが、危くこちらから敬礼しうになつた程だ。どうも服装に關する限り卒業生の方が格が下つた感じ、全然、誇りなんて持てるような品物ではない。それで勢い私服を着

る結果になるらしいのだが。

休み時間でも、一番騒がしいのがおれらのクラス、タバコを吸いながら、冗談を言い、教官を吊し上げ、一寸診察や用務で教室がわからなくても、中庭に出て一番騒音の大きな方へ舵を取れば無事帰れる。

防大出の一つの特徴はなんといっても、物に怖じないおれらかさと、階級無視の天真爛漫さちんらんまんにしよう。防大在学中、首相、長官、統幕長、それに諸外国の高官の来訪も多かつたし、統幕議長とは卒業パーティーで飲んだ勢いに「おい、しつかりやろうぜ」と肩を叩き合つた仲だ。防大で石を投げれば三佐に当たると云う環境に育ち、二尉、三尉ともなれば、お茶当番位にしか考えていなかった我々が、江田島に来て三佐になるのに十年もかかるなんて驚かされ、この頃初めて「やはり三佐つて偉いんだなあ」なんて感ずるようになった。

こんなわけで、教官にも平気で皮肉は云うし、冗談も出る。天真爛漫のなせる業だ。

入校早々の体育の時間、教官「防大で体操の時間をやつて来た。体が固い、もつと曲がらないか」

学生「はい、筋金が入つてますから」

教官「筋金入りにしては話し声が多いぞ」

学生「体を動かすので、筋金があつかるんでしよう」

これには、流石の教官も笑わざるを得なかつた。

さて、どうもおれが女性の話をしないと、あついに平間も軍神に昇格したか、なんて誤解する不心得者が多いので、そろそろ

本論に入ろうか。

その後の対女性戦線だが、未だ江田島に橋頭堡も築け得ず、戦鬪は大部苦戦だ。加うるにホームグラウンド横須賀では内乱勃発、手紙の回数も激減の一路をたどり、又当地でも先日の手紙「美人がいますかつて、冗談ではない。皆んな夏みかんみたいにくぶくぶくして……」と書いた部分、君も未だ覚えていたろうが、あれがどう伝わったのか、江田島の女性の逆鱗に觸れ、これを讀んだ或る女性、口惜さの余り「まあ、可愛いらしくない、失礼しちやうわ」と激怒したそう。

この事を聞いて、「可愛い」の否定形かくらいの軽い気持でいたら、どうしてこれは方言の一種「にくらしい」「生意氣だ」とかともかく、もろもろの憎悪感情を含んだ表現だそうで、困った事になつてしまつた。

方言と云えば、かぼちやがぼうぶら、いちぢくがとうがき、驚ろくなかれ三輪車がバツタンコ、新聞なんかにも「バツタンコ衝突」なんて書いてある。

その他「喰べなさい」が「喰べんさい」「な」が「ん」に転化し、「どうかしましたか」が「どうしたん」アクセントが仲々むづかしい。おれは未だ聞いた事はないが、甘く優しく女性特有の言葉だそう。

男はやたらに「のう」「のう」を使う「バツタンコがのう、衝突してのう」こう書いてみるとおれも相当の言語学者らしいのう。

さて、我々の今後の予定を話すと、十月十六日から十一月七日頃まで横須賀へ機関、艦隊実習で行く、この事は皆なに秘密だ。

余り大勢来ると破算するし、それに君一人の方が分け前も多いぞ。

それが終つて、十二月一杯鹿屋で航空実習、四月一日晴れて三尉、それから六月頃まで内地巡航、終つて遠洋航海、ハワイ、ロサンジェルズ行きがすでに決定している。

今から楽しみだ。防大の二年の時、いつかはハワイに行くだろうと思つて、ハワイにペンフレンドを作つておいたのが役立ちそう。

先日「行くぞ」と知らせたら、喜びの余り、自分の家の電話番号から、デートにはホノルル公園が静かだ良いとか、何を着て行くとかしら、と来た。おれはハイビルは大きいらいと書いてやつた。

君も中央駅やカナリヤ等のデートにはかり夢中にならないで、海軍士官だ、もつとスケールを大きく持つたらどうかね。

エリーヌ嬢と我輩の行状については、遠洋航海後、くわしく報告するよ。

本論はこのくらいにして、さてと。

そうそう、七月中旬、乗艦実習で下関まで行つたがその時、久し振りで、空幕の連中とクラス会を開いた。

場所は下関水産会館、どうせ魚臭い久里浜会館クラスくらいに思つて行つたら、どうして下関随一とか、立派だ空幕の連中も仲々スマートになつたわいと感心した。

サンドウィッチに、フィッシュフライ、後は大方忘れたが、生ビール中ジョッキに二杯が限度「規定以上お飲みになる方は理事に氏名を届けてからお願ひします。その分は給料日に理事が集め

海上要員の友情にいさゝかの変化もない、我々陰ながら彼等の成功を祈り又出来るだけの便宜を計りたいと念じている。

六月、航海実習で下関に寄港した時、空幕の連中（K-58）とクラス会、詳細は小原台に書いたので御存知の事と思う。

八月二八日、遠泳、水温低く、潮は逆潮、つらかったが、完泳者の大部分は防大出で占めた。これは以前に泳いだ経験にもよろうが、なんと言つても、最大理由は「防大出のくせに学士様（一般大学出、久留米からの輸入者）に負けられぬ」という悲壯な瘦我慢の結果で、母校に対する誇りが、又母校の名譽を傷つけまいとする潜在的精神力がこの遠泳を完泳させたと言えよう。

遠泳の終つた九月から体育日課とかいう猛烈な日課に追い廻され、まつたく生きた心地がしなかつた。

これはおれ達の先登に当る六期の連中が乗船実習中に体力的に伸びてしまつた為に体力の増進を目的に実施されたそうだが、迷惑な話だ。

せわしい生活に追われる毎日であつたが一〇月からの機関実習、艦隊実習、航空実習は我々の救いであつた。機関実習は横須賀の田浦、久し振りで、防大を訪問、学生泣かせの地獄坂、踵までめり込む砂塵、すつかりあの頃を想い出し懐かしかつた。

「先登先登」と下級生におだてられPXでいい氣になつていた内に何時しか財布の中が残り少なり帰りのバス代まで喰ひ潰されぬうちに退散した。然し下級生は可愛い。

機関実習が終つて艦隊実習約一〇日、部隊に来て我々に對する期待の大きなのは我々自身驚いた。学校に居れば批判精神旺盛な我々は目の仇だが、実施部隊では最初におだてられたせいか、我々調子に乗つて増々カーブは上げるし、鹿屋の航空実習の英語素養テストは開隊発足以来の好成绩、かくて三ヶ月余り学校を離れ、久し振りにのんびりさせてもらつた。但しこれは結果的に言えば我々が足踏させられてしまつた訳で、この事は一寸考えさせられる問題だと今になつて思う。

実習、正月休暇を終え、のんびりした氣持で帰校したら「起床動作が遅いグラウンド三周！」君らも知つているだろうが元四大隊の指導官、一色一尉に活を入れられた。

防大の時は未だ2尉でおられたが、何しろ今は教務係長、おれみたいに成績の悪い男には脅威である。

この間彼に会つたら、「平間此頃勉強しないな、成績が悪いぞ」と脅かさされ、氣の弱いおれはその晩寝つきが悪かつた。

二月一七日から約十日間五時半に起こされ、カッター・マラソン・武道を一時間位やらされる。

朝マイクで「起床起床」とどなられると氣のせい、「チキシヨウ」「チキシヨウ」と言つてゐるみたいで仕方が無い。此時ばかりは「あゝ自衛隊に入るんではなかつた」と思うが給料をもらう時は別だ。

二月一〇日から四日間、綜合試験があつた。即ち修得した、航海・機関・砲術・水雷・電氣・機械等30科目近い全科目を全員同一問題で受験、それによつて卒業序列を決め

るとか。全員必死だった。

結果かよ、我々には申し分のない、武景氣が訪れた。安心して呉れ。

試験が一応終つて暇になると一杯やろうという声が自然に起る。岡田、吉川、後藤、馬場等が発起人となり、呉で最高とかいう幹山荘で防大会。

参加者七七名、二次は久保(彰)鈴木(信)久保は手術で江田島の病院へ、鈴木は十二月の全国自衛隊ラグビー大会で負傷、中央病院に入院中で不参加、例の小賀のトランプで学生歌を合唱、後は飲む程に騒ぐ程に例によつて例の如し、轟沈、沈没数知れず。会半ばで島津氏の婚約発表、シヨックだったよ、我々チヨンガー族には。そして二十三日の連休を利用して結婚、壇上に立つて、「私はモーニング、彼女は振り袖姿、式は神前、ハネムーンは道後へ二泊、彼女は……」ノロけることノロけること、結婚祝に二百円は取られるしあげくの涯にのろけられて、まったくミチメだった。いいのが見つかったら紹介してくれ、ただし中古は御断り、パソコンドエンジンみたいに問題が起ると困るから。

明日卒業式。一年間の江田島生活も終り暗れて尉、防大を入れると突に5年の歳月が流れる。これで一人前、晴れて金筋一本敷いて士官になる訳だが、「初任尉は既以下」の伝統の下に、未だ当分しぼられるらしい。

さて卒業後の予定だが卒業と同時に「くす」「かや」「けやき」等七隻に分乗全国一週の巡礼が始まる。この時、卒業以来離れ離れになっていた陸空の連中にも再会出来る

と思う。

今のところの寄港地、鳥、大阪、横須賀、大湊、函館、舞鶴、佐世保、下関、鹿児島、呉、徳山とか、決まりしい一報する、盛大な出迎かえ頼む。

横須賀には五月初旬に入る。終つて六月中旬頃から遠航。八月末まで北米西岸、は既に決まっている。噂ではロスカーンクーパーまで行くらしい。

羨ましいだろう。ハワイまでは必ず行くだろうと、ヨロメキ根性を起して防大二年の時にハワイにペンフレンドを作つてより四年、あの頃は彼女も子供だったが、四年も経つと適齢期、先日「結婚しようと思うの、相手はとても親切で良い方よ、」手紙代だけでも四年間に三〇〇〇円以上、それに去年のクリスマスには派手に投資してしまつたのに、今になつて結婚するなんて、人の氣も知らないで、と腐つている。

まあ、遠航の話は九月帰国後ゆつくりするよ。皆、次の会報に書くから期待してくれ。

卒業序列も決まつた、おれかよ、駄目だ、「平間洋一以上二〇一名三等海尉に任命する」と言われる寸前だった。

皆んな良く頑張つた、上位は殆んど我々だ二〇番までに他大学出は二名大体こんな調子だ。いずれ又書く、尉まで後二時間半。卒業式に雨が降ると大将が出るというジントクスがあるそうだが、今日は朝から雨、海将、海将補が続々出そうだ。

陸空の健闘を祈りつつペンを置く。

では元気で再会の機を楽しみに待つている。